



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



Yet... Joy! Hope! Gratitude!

東日本大震災から一年

ミサで犠牲者の追悼と被災地の再生を祈る

東日本大震災発生から一年となった三月十一日(日)には、全国各地で犠牲者の追悼と被災地の再生を祈る集いが開かれた。鹿兒島教区でも午後二時から鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂で、郡山司教司式による「震災による犠牲者の追悼と被災地の一日も早い復興を祈るミサ」がささげられ、ミサ中に迎えた地震発生時刻・午後二時四十六分には教会の鐘を鳴らして黙祷した。



死者は一万五千人を、また行方不明者も三千百人を超えた東日本大震災、現在も約三十四万人が避難生活を送っている。被災地では町の復興、がれき処理、福島第一原発事故により拡散した放射性物質への対応な

ど問題は山積で、復興への道のりは遠い。そんな未曾有の大震災の苦しみを未だに味わっている人たちのため、ミサは午後二時から始められ、二百人ほどの信徒が参列し郡山司教と八人の司祭、そして助祭四人と

ともに被災地で悲しみや苦しみに闘う人たちに寄り添うひとときとなった。ミサの冒頭この日のミサについて語った郡山司教は、「全国の教会が、そして様々な団体が亡くなった方々の冥福と被災地の再生を祈っている。私たちも心から祈りをささげ被災地の人が一日も早く、悲しみと苦しみから解放され

「鹿兒島司教区ボランティア基金」開設

東日本大震災からすでに1年が過ぎました。これまでの皆様方のお祈りとご支援に対して、心から感謝申し上げます。大震災からの復興は長い道のりになります。そして、支援も継続していかねばなりません。いろいろな支援が考えられますが、被災地へボランティアに行くことも大切なことです。しかしながら、鹿兒島から被災地へスタッフまたはボランティアとして行くためには時間とともに高額な交通費がかかります。この問題を少しでも解決するため、鹿兒島司教区顧問会は「鹿兒島司教区ボランティア基金」を開設して募金活動を行うことにいたしました。この基金は、教区内の皆様が被災地へボランティア等に行く際、その交通費の一部を援助するものです。また、長崎教会管区としてのベースキャンプ運営等の活動資金としても用いられます。つきましては、この基金の趣旨にご理解下さり、皆様方のご協力をお願い申し上げます。なお支援金の振込先は以下のとおりです。

振込先
ゆうちょ銀行
口座記号番号 : 02030 - 2 - 8359
加入者名 : カトリック鹿兒島司教区
※通信欄に「カトリック鹿兒島司教区ボランティア基金」とお書き下さい。

郡山司教「祈りで教区を満たそう」

ザビエルの列聖記念ミサで

聖フランシスコ・ザビエルの列聖記念日にあたる三月十二日(月)午後七時からザビエル教会で列聖記念ミサがささげられた。このミサは郡山司教の発案によるもので、聖ザビエルの列聖記念日にこのような形で記念ミサがささげられたのは教区では初めてのことで、

郡山司教は「今日のミサの目的は追悼や復興を願うだけではない。神と人、人と人、人と自然の調和のために働かれたイエスのわざを生き抜くことができるように祈るためだ。東日本大震災によって傷ついた日本だがこのことを通して、ますます整えられていくように祈ろう」とメッセージを送った。

修道会人事

レデンプトル修道会は四月一日付で次のように人事を発表した。
▼J・ハンマ神父(川内教会主任司祭)は入来教会主任司祭
▼T・メニツヒ神父(入来教会主任司祭)は川内教会主任司祭
▼石田望神父(出水教会主任司祭)は、現職のまま阿久根教会主任司祭を兼務

山口重義神父(阿久根教会主任司祭)は、阿久根教会協力司祭

※お詫びと訂正
教区報三月号で「S・ロベルト神父(玉里教会主任司祭)は教区外へ」と報じましたが、「休暇のため教区外へ」の間違いでした。お詫びし訂正いたします。従いまして、「寝占敦之神父の玉里教会管理者」はロベルト神父の休暇中のみとなります。

一六二二年の今日(三月十二日)、列聖された。今回が三百九十回目の列聖記念日だ。鹿兒島は日本における信仰の始まりの地だが、全国的に見ても信者数の少ない、小さな教区。実は、少なかつたかもしれないが、当時それでも必死に宣教されたザビエルさまに倣って、今、推し進めているノベナの祈りなどに熱心に取り組むことで、決して少なくない祈りの数で教区を満たし、人々の癒しとなる教会を目指そう」と語った。

教区司祭人事

復活祭後の着任として発表された次の二人の司祭人事に追加があった。
▼O・ベルナルディーノ神父(志布志教会主任司祭)は、志布志幼稚園副園長
▼J・ドゥン神父(加世田教会主任司祭)は、加世田聖母幼稚園副園長

助祭の消息

▼鈴木康由助祭(鴨池教会・聖母幼稚園職員)は、四月から八月まで聖心教会で司牧実習

YET

四年に一度 やってくる父の命日から二週間ほど経った日、嫁いで東京に住んでいる妹が母の所に顔を出した。年明けから体調を崩していた母を見舞うてのことだ。久しぶりに遺影になった父と残った三人が顔を揃えた▼父を弔ったのはもう二十四年も前になる。僕が二十九歳のときだ。肺がんから脳腫瘍へとなり、子どものように天真らんまん愛すべき人へと変化して、父は旅立った。こんな父ならまだ、もつとつき合っていたかった。▼もともとはお人よしの父だったから、数回あった「騙される」ということさえなければ、もつと違った人生を、いや親子関係を築けたのだと思う。でもそうではなかったから、ある期間、父だけを残して皆で家を出た。数カ月間、父は借金取りを恐れて電気もつけず、暗闇の中、焼酎だけを友に生きていた。「男らしくない」とますます父を嫌った自分だった▼「甘やかせ過ぎ」いつも嫁に叱られるのは、四歳になったチビとの接し方が原因。やんちゃで、我儘で手がつけられないが、なぜかしら叱る気にはなれない。溺愛とはこんなことなのかもしれない。その溺愛するチビの名前にある「寛」の字は、親父の名から取った。あんなに嫌ったこともある父の名をどうしてもらったのか、不思議になる。一人置き去りにした罪滅ぼしだったのか、それともやっとな親の愛が分かるようになってきたのか。息子と同じように「寛ちゃん」と呼ばれていた父への思いを残りの人生で整えていきたいと思う。

1 西郷と陽明学

一月二十二日(日)「西郷隆盛はキリシタンだったか」について研鑽する集まりがマリア山荘であり、五十八人の参加者が熱心に研鑽の時を持ちました。鹿兒島教区長郡山司教さまの記念ミサで開始され、西郷南洲顕彰館館長・高柳毅先生の記念講演及び討論が進められました。講演において、先生は、西郷の思想的遍歴を紹介し、西郷がキリスト教に出会う前に、その露払いの役割を果たした陽明学との邂逅を語られながら、西郷がキリシタンだったことを論証づけてくださいました。私も、三十年前前から、西郷と陽明学及びキリスト教との間に関係があることを調べていたところでした。

北海道大学で同期であり、宣教師クラーク博士より共にキリスト教の洗礼を受けた新渡戸稲造(一八六二〜一九三三)も、英文で書かれた著作『武士道』の中で、こう述べています。「西洋の読者は、王陽明の著述の中に、『新約聖書』との類似点の多いことを容易に見出すであろう。特殊なる用語上の差異さえ認めれば、『まず神の国と神の義とを求めよ、さらばすべてこれらのものは汝らに加えられるべし』という言葉は、王陽明のほとんどいづれのページにも見い出される思想である」(同書 岩波書店版 一九三八年 一九八四年版 36頁) ちなみに、クラーク博士

「良知」とは英語の *conscientiousness* ラテン語の *conscientia* に対応することばと言われ、日本語の「良心」に近い意味を持つていますが、それだけの意味では足りません。人の心の中に行える能力があります、それは人の判断力という意志だけによるのではなく、良く知る能力を与え、良く行わさせる恩寵 *gratia* の働きによるのです。

知良能は、先天的に人に恩寵として与えられているが、これを使い発揮していることに、恩寵は具体的に実現を見るのである。これが、「知行合一」ということの意味である」と。これを陽明は『拔本塞源論』『事上練磨』という言い方で、説明しています(坂本陽明『王陽明と聖アンセルムス―良知と Rectitude の比較研究』中国輔仁大学 一九九二年)。

西郷さんが理解した陽明学の実践とはこういうことであつたのです。西郷さんは良いことを知り、それを実践していくことにより注がれる後天的良知と言え、恩寵の働きを沖永良部に流罪された時につかみ取った

横浜のプロテスタント教会で宣教師から洗礼を受けたという記事を記載した資料がありましたが、焼失して証拠は残っていません。横浜に現存する教会の洗礼台帳に西郷さんらしき人の名は記されてはいないので、西郷さんは幕末から明治維新において公的の最重要人物でありました。キリシタン禁教が明治六年(一八七三年)に解かれたとはいえ、未だ禁教令解除が普及してはいたわけではなく、かえって、キリスト教排撃の社会的風潮も高まっていたのです(土肥昭夫『日本プロテスタントキリスト教史』新教出版社 一九八〇年、一九九四年版 39〜41頁)。ゆえに、洗礼の記事はむろんのこと、西郷さん自身が、公的に、キリシタンに関することを言つたり記したりすることは出来なかつたと言えます。山形庄内藩士が西郷さんを慕つて編集した『大西郷遺訓』に、キリシタンに関する言行が見られないのは、かくのごとき理由からであつたと言えるのです。

キリシタンの歴史(四)

西郷隆盛はキリシタンだったか(2)

溝辺教会主任司祭 坂本 進

日本における代表的キリスト者として知られる内村鑑三(一八六一〜一九三〇)は、英語で書かれた名著『代表的日本人』において、代表的日本人として「西郷隆盛」をその一人にあげていますが、その中で、西郷が信奉し実践した教えが、陽明学であつたことを述べています。

が内村ら学生に語つたという *Boys be ambitious!* (若者よ、大志を抱け) という格言は、*in Jesus* (イエスにおいて) という英語が続いていたのを、訳者が省いてしまったとのことだ。「イエスにおいて、大志を抱け」という意味なのです。

カトリック教会では先行的 恩寵 (*gratia praeventiens*) と後天的 恩寵 (*gratia subsequens*) という言葉で、恩寵を説明することがあります。つまり、すべてのことは神の恩寵の中にあるのですが、その恩寵は、恩寵を使つていくことによって、恩寵の働きが増していく、そう説くのです。ですから、せつかく神の恩寵の中にありながら、足りないものばかり見て不満ばかり言つて、与えられていない恩寵の働きを機能させず使つていかなければ、恩寵は用いられず、恩寵の働きは失われていくのです。

陽明は、これと同じことを言っているのです。「良

2 『良知』と『恩寵』

ところで、王陽明というと、日本に陽明学を普及させた中江藤樹、熊沢蕃山などによって、「知行合一」の提唱者として捉えられています。その「知行合一」ということについては、誤解がなされています。これは、「知つたなら実行・実

践せよ」というだけではありませぬ。陽明は、また、「山中の賊を破るのは難しく、心の中の賊を破るのは難しい」とも言っています。これが、「これを解くキーワードは「良知」ということばにあります。

「良知」とは英語の *conscientiousness* ラテン語の *conscientia* に対応することばと言われ、日本語の「良心」に近い意味を持つていますが、それだけの意味では足りません。人の心の中に行える能力があります、それは人の判断力という意志だけによるのではなく、良く知る能力を与え、良く行わさせる恩寵 *gratia* の働きによるのです。

西郷さんが、キリシタンであつたかどうかを検証するてがかりについては、前号(二〇一二年一月号)で紹介いたしました。西郷さんが洗礼を受けていたかどうかについては、

3 「西郷さんはキリシタンであつたか」その証拠は?

西郷さんが、キリシタンであつたかどうかを検証するてがかりについては、前号(二〇一二年一月号)で紹介いたしました。西郷さんが洗礼を受けていたかどうかについては、

4 陽明学と明治のキリスト者

しかし、西郷さんがキリシタンであつたことを確認づける傍証があります。それは、西郷さんと同じように陽明学を学んだ多くの幕末・明治初期の武士出身者たちが、キリスト教徒になつていくという事実です。同じ九州・熊本出身で、近代日本のキリスト教会の基礎をつくつた海老名弾正、横井小楠の長男・時雄、本多庸一、松村介石らは、みな陽明学徒でした。植村正久、内村鑑三も同じです。

陽明学はどこがキリスト教につながつていったのかと言え、それは、陽明学が心(魂)の救いと善(愛)の実践を説き、そこに個人の主体性の確立をはかるものとさせていたからとも言えましょう。ゆえに、必然的にキリスト教につながつていったのです(林田明大『真説陽明学入門』三五館 二〇〇三年版 316頁)。

西郷さんの標語となつた「敬天愛人」のことばを、最初に日本にもたらしたのは、中村正直(敬宇)です。彼も陽明学徒であり、スマイルズ『西国立志伝』(明治四年訳)やJ・ミル『自由之理』(明治五年訳)の著作を翻訳しているうちに、キリスト教の精神を「敬天愛人」と訳し、自らもその精神に感動しキリスト者となりました。

西郷さんが、「敬天愛人」のことばを強調するようになつたのは、中村正直の訳が出てからでした。西郷さんは「敬天愛人」を標語とさせることによって、キリ

西郷さんの標語となつた「敬天愛人」のことばを、最初に日本にもたらしたのは、中村正直(敬宇)です。彼も陽明学徒であり、スマイルズ『西国立志伝』(明治四年訳)やJ・ミル『自由之理』(明治五年訳)の著作を翻訳しているうちに、キリスト教の精神を「敬天愛人」と訳し、自らもその精神に感動しキリスト者となりました。

次回の『キリシタンの歴史』第五回は、再び、江戸時代のキリシタン時代に戻つていきたいと思つています。禁教下にあつながらも、なぜキリシタンが存続し得たのかを片岡弥吉先生、海老澤有道先生、チースクリフ神父さまの研究に基礎づけを置きながら、二十世紀の日本における宣教のあり方に方向性を向けながら、一緒に考えてまいりたいと思つています。また、鹿兒島教区の保護の聖人・聖フランシスコ・ザビエルの遺産についても、言及していきたいと思つています。


*訂正とお詫び 前号二〇一二年一月号の『キリシタンの歴史』(四)は、(三)の誤りでした。お詫び申し上げます。

ザビエル書院の窓

日本語訳新約聖書四福音書 山浦玄嗣 訳
ガリラヤのイエシュ

聖書は信心のための本という立場をはっきりさせ、心にまっすぐ届けようと「洗礼」を「お水潜り」と訳すなど、幕末から明治維新に至る時期の種々の日本語が使用されている。また人々の会話にはケセン語や名古屋弁、鹿兒島弁など状況に応じて使用され、目で読むと同時に耳にも響かせる狙いがある。一度手に取って欲しい一冊。

イー・ピックス出版 (2,520円)



四十号の出版を祝う!

福祉文集「わらしべ」

好天に恵まれた三月十一日(日)、パッションの会のメンバー七人は八時二十分発の垂水行きフェリーで、白波立つ春の錦江湾を渡り、一路錦江町へと向かった。目的は福祉文集「わらしべ」の第四十号出版記念会への参加で、仲間たちがお祝いの心を届けようと計画したのだ。会場に着くと「わらしべ」を主宰する川越清春(大根占教会)さんを迎えられ、午前十一時から出席者六十七人で東日本大震災一年の追悼を行った。



は、はじめに錦江町長、南大隅町長の挨拶があり、その後、基調講演があった。

税所篤郎さんの講演「老後の夢」には、行政の立場からで説得力があった。次の清原浩さんの「地域を興すこと」には、麦の芽の創立者として、現在の取り組みと将来の福祉について、専門の立場から新しい示唆を与えてくれた。

その後、地元の方からは「わらしべ」の創刊から四十号を迎えるまでの

司教執務室だより

手抜きされぬ神

「ノベナの祈りをします」という便りが教区外からも寄せられるようになった。嬉しいことである。ところで、ノベナが九つという意味であることは知っていてもどうして九なのかとなると定説はないようであるが、「ひとつの意向のもとに熱心に祈ることが大切である」ということについては年頭書簡でも触れたことである。

ところで、聖ヨセフに対するノベナの祈りでは、短い黙想のあと、同じお祈りを七回繰り返すことになっている。どうして七回なのかは聖書に根拠があるようだ。その前に、七という数字が聖書では聖なる数字ということになっているが、その根拠を確認しておきたい。それは、この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第七の日を神は祝福し、聖別された(創世記二章三節)ことによる。しかし、これが、聖ヨセフに対するノベナの祈りで七回繰り返す根拠というわけではない。先月号の毎日の聖書の第一朗読のエピソードに思わず膝を叩

いたものだ。列王記下に次のような話がある。アラムの司令官ナアマンが重い皮膚病にかかり、神の人エリシヤのもとを訪ねると、エリシヤが言った。「ヨルダン川に行つて七度身を洗いなさい。そうすれば、あなたの体は元に戻り、清くなります」(五章十節)。ナアマンは「ヨルダンに七度身を浸した。彼の体は元に戻り、清くなった」(十四節)。

聖書にはたくさんエピソードがあり、七という数字は随所に出てくるが、病気の癒しと直接関係のある使われ方をしているのは、唯一ここだけ。それで、ノベナの祈りをするときは、ナアマンが清くなりたて一心で七回身を浸したことに思いを馳せながら、私たちも必死に七回の祈りを捧げたい。

また、先ほども述べたように聖書における七は聖数であり、完全数と呼ばれる。手抜きをされなかつた神様の創造の業の完全さを称える数字といっている。それで、私たちが、今も一生懸命働いておられる神様を称えながらノベナの祈りに励



「短信」

▼四旬節一日黙想会

三月十九日(月)ザビエル教会で「ホリスティック四旬節一日黙想会」が開かれた。指導に当たったのは坂本進神父(溝辺教会主任司祭)で、二十数人が出席し、「ゆるしと新しい命」

三十三年間にどのようなかわって来たかが、ユーモアたっぷりに紹介された。原稿依頼のために、夜となく昼となくお構いなしに足を運び、門を叩く川越主宰だそうだが、この地元の温かさはそれを許し、見守り続けてきたようである。

出席者の紹介で挨拶した桃菌助祭は、川越主宰がカトリック教会で洗礼を受けた

をテーマに学習し、復活祭の準備をした。

▼下村徹神父が金祝

一九七〇年四月に長崎教区から転籍し、その後二〇〇三年九月まで鹿児島教区各地で司牧するとともに教区内の幼稚園教育のために尽力した下村徹神父(現長崎大司教館)が、三月十九日、叙階五十周年を迎えた。七十六歳。

▼ティエン神父免許取得



運転免許証を提示してちよつと誇らしげな顔をしているのは鴨池教会のティエン神父。「大丈夫か」と周りをハラハラさせたが、見事に運転免許証を取得した。ティエン神父が誇らしげなのは訳がある。それは他のベトナム人司祭たちが英語で運転免許の学科試験を受けたのに対して、ティエン神父は日本語で受験して合格を勝ち取ったからだ。

け、現在は「障害者の自立を考える会」(パッションの会)の会長を務めることを紹介。障害者であってもそうでなくても同じ目線で共に生きるあり方の大切さを説いた。出席者からもカトリック教会での洗礼の力の素晴らしさを称える声が上がっていた。

(報告・小瀬戸秀子)

生き生き便り

瀬留小教区

町民フェアで表彰

二月十九日(日)大島郡龍郷町では町民フェアが開催され、その席で二人の信徒が次の表彰を受けた。

健康長寿者表彰(自立して何でもできる)マリア田畑アツさん(九十二歳)アツさんは「みんなのお陰さまで元気でいられることが幸せ」と語っていた。

永年表彰(大島紬織りの振興に寄与)テレジア美島姫子さんは「今まで続けてきて、感謝いっぱい」と語った。(以上、報告は瀬留小教区報「かけ橋」から)

4月の会と催し

1日(日)	受難の主日(枝の主日)
2日(月)	世界青年の日
5日(木)	中野裕明神父叙階記念日(一九七八年)
6日(金)	聖香油ミサ・ザビエル教会・10時
7日(土)	聖地のための献金
8日(日)	聖土曜日
9日(月)	成相明人神父霊名(聖ラサール)
10日(火)	復活の主日
11日(水)	司教評議会・教区本部・14時
14日(土)	教区司祭会・教区本部・16時
15日(日)	定例司祭集会・教区本部・10時
16日(月)	フリチエル神父叙階記念(一九五五年)
17日(火)	宣教学校・教区本部・13時30分
18日(水)	復活節第二主日(神のいつくしみの主日)
18日(水)	レデンプトール会例会
18日(水)	ホリスティック・スピリチュアル講座「詩編を祈る」・ザビエル教会集会室・10時・参加費五百円
18日(水)	奄美地区司祭例会
18日(水)	ホリスティックカウンセリング講座「カウンセリングの基本的考えと実践」・ザビエル教会集会室・18時30分・参加費五百円
22日(日)	松森孝郎神父叙階記念(一九七一年)
22日(日)	復活節第三主日
25日(水)	アン神父叙階記念(二〇〇六年)
25日(水)	オリーブの会・教区本部・14時
25日(水)	聖マルコ福音記者
28日(土)	ハンマ神父叙階記念(一九六三年)
29日(日)	アッシュヤー神父叙階記念(一九六八年)
29日(日)	復活節第四主日
29日(日)	世界召命祈願の日

+KABAYAN SEKSIYON+

"PAGLALAHAD"

II. ANG DIYOS BILANG AMA

Paano kayang nangyayri, maayos at totoo para makatawag tayo sa Dios nating Ama? Limang pangunahing kadahilanan ang maaaring ibigay kung bakit ang Dios ay ating Ama. [Ating Manlilikha]

Una, ang pinakamalinalaw na kadahilanan ay sapagkat tayo ay nilikha niya. "Ang Dios ang lumikha't nagladlad ng kalangitan... at nagbigay-buhay sa lahat ng bagay dito sa daigdig, at ngayon ang Panginoon Dios ay nagsabi sa kanyang lingkod, Akong Panginoon, tumawag sa iyo, binigyan kita ng kapangyarihan." Bilang mga Kristi yano alam nating, "Tayo y kanyang nilalang, nilikha sa pamamagitan ni Kristo Hesus." [Ang Tagapagkalinga].

Ikalawa, Ang Dios ay ating Ama sapagkat ipinagkakaloob niya lahat ng ating pangangailangan. Ipinahahayag ng Salmista: "Ang Panginoon ang aking pastor; hindi ako magkukulang." Isinugo niya sa atin si Jesus, "ang mabuting Pastol," na nagturo "kung ang mga damo sa kabukiran... ay dinaramtan ng Diyos, kayo pa kaya? Kay liit ng pananalig ninyo sa kanya!" [Ating Manunubos].

Ikatlo, ang Diyos ay Ama sapagkat tayo ay tinubos niya. "Ikaw, Panginoon, ang aming pag-asa't Amang aasahan; tanging ikaw lamang yaong nagliligtas ng aming buhay." Ang katutubasang ito ay isang karagdagang sagisag ng pag-ibig ng ama. "Gayon na lamang ang pag-ibig ng Diyos sa sarilubutan kaya ibinigay niya ang kanyang bugtong na Anak, upang ang sumampalataya sa kanya ay hindi mapahamak, kundi magkaroon ng buhay na walang-hanggan." [Ang Nananahang Espiritu ng Dios].

Ikaapat, bilang ating Ama isinusugo ng Diyos ang kanyang Espiritu upang ibabahagi sa atin ang kanyang banal na buhay. "Kung tayo y nag-iibigan, nasa atin ang Diyos at nagiging ganap sa atin ang kanyang pag-ibig. Nalalaman nating nananatili tayo sa Diyos at siya naman sa atin, sapagkat pinagkalooban niya tayo ng kanyang Espiritu." [Ang Ating Sariling Pagkakakilanlan/Tadhana].

Panghuli, tulad mismo ng kay Jesus, ang Diyos bilang ating Ama ay batayan ng ating sariling pagkakakilanlan. Dahil lahat tayo y mga anak ng Diyos, itinalaga tayo para sa buhay na walang-hanggan kapiling Niya. Napapaloob sa mga katagang "Ama, Ama ko!" ang nata-tanging ugnayan sa Diyos na naranasan ni Jesukristo. Tayong lahat ay inaanyayahan ni Jesus na makibahagi sa ganitong ugnayan. Ang maging Kristiyano samakatuwid, ay nangangahulugan ng pagkilala na lahat ng tao ay tinatawag upang maging ampong anak ng Ama kay Kristo Jesus. Kung gayon, ang maka-anak na pag-ibig ng Diyos na ating Ama ay nananawagan para sa mapagmahal na paglilingkod sa ating kapwa-tao. [Ang Ating Makainang Ama].

Ang mga kadahilananang ito kung bakit ang Diyos ay Ama ay hindang-hindi di nagsasabing ang Diyos ay may kasarian, ibig sabihin, siya ay lala ki o babae. Ang kaganapan ng buhay ng Diyos ay kinapapalooban ng aspeto ng pag-ibig na parehong makaama at makaina, at higit pa rito. Siya ang ating ama at ina na siyang nag-aalaga sa atin.

Katekismo-Pilipinong Katoliko (Fr. Dino Orolfo)

大震災被災地でボランティア

鴨池教会 河野里実

昨年の三月十一日、東日本大震災が起きた。震災当初、テレビでは気分が悪くなるくらい悲惨な映像が流れ、衝撃を受けた人も多かっただろう。私も、多くの生命が奪われたこの大震災が頭から離れず、行ける時に行かなくてはという思いからボランティアに参加させていただくことになった。



向かったのは岩手県大槌町だ。初め見た時、さら地同様の殺風景な風景

に、町があったことを想像できなかった。瓦礫となつてしまった建物は随分片付けられていたが、ところどころにまだ残骸が残っており、大量の潰れた車が目にとまった。山は火災で燃え、緑がない部分も多く見られた。震災時、大槌町は火の海だったという。お墓の上にお寺があり、そこが避難所になっていたが、予想を超える大きな津波により、そこに集まっていた四十人程の高齢者が逃げ切れず亡くなったという話を聞いた。何度か、仮設住宅に行く機会があったが、本当に人が住んでいるのかと疑いたくなるほど静まり返り、生活感がなかった。震災前は、商店街や公園など楽しめるところがあった。

しかし、今は何も無い。子どもたちが遊べる場所さえない。どこに行くあてもなく、狭過ぎる仮設住宅に閉じこもるしかないのだと思つた。このような状況では、人と人との交流もかなり減少していると感じる。大槌病院で働いていた方とお話をする機会があった。津波が来ることを聞いて患者さんを屋上に上げて、自分も屋上で津波から免れた。あの時、振り返つていたらと考えるとゾッとする。私は何と返事をすれば良いのか分からず、ただ

ただ目の前にいる方の話しに耳を傾けることしかできなかった。予想以上に、現地の人々の心の暗闇は深く、その重みは少しも消えていなかった。たくさんの方が津波に溺れたり、火災で亡くなった。中には、建物の中で行く手を塞がれて、水にもがき苦しみながら亡くなった人もいた。そして、その様子を何もできずに見ていた人たちがいる。想像もしたくないほど非現実的で残酷な思いをしたのだ。

二週間のボランティアが終わり、鹿児島島にいたら分からねなかった現地の状況や人々の苦しみに触れ、考えさせられることが多かった。普通の生活がこんなにも有り難いものだったのか。被災地の人々を思うと目頭が熱くなる思いだ。同じ日本に住む者として、この大震災に目を背けてはならないのだ。鹿児島と東北は遠く離れているが、決して人ごとではない。被災地の人々のためにできることは何か。その思いが、被災した町や人々の心を明るく照らすのだと思う。

スーさん(鈴木助祭)のやさしいみことば イエスとペトロの愛するを巡って

復活したイエス様はペトロに「私を愛しているか」と三度尋ねる有名な箇所がヨハネ福音書にあります(二十一・15-17)。この箇所を原文で読むと意外なことがわかります。実は、イエス様は単に三回とも同じ質問を繰り返しているわけではなく、ギリシア語では「愛」という言葉を四つに分けて考えます。一つ目は男女の性的愛を表現するエロス、二つ目は子が親を慕う孝愛を表現するストルゲー、三つ目は友人間の友愛を表現するフィリア、四つ目は命がけの愛を表現するアガペー、以上に分けられます。

さて、このことを前提にこの場面を原文に沿って読んでみましょう。最初にイエス様はペトロに「愛しているか」と「アガペー」で尋ねます。そのとき、ペトロは「愛している」と「フィリア」を使って答えました。二度目もイエス様は「愛しているか」と「アガペー」で尋ねますが、ペトロは同じく「フィリア」で「愛している」と答えたのです。

エスが三度も「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなったとありますが(ヨハネ二十一・17)。果たして、本当に悲しくなったのはペトロなのか。それともイエス様なのでしょうか。また、イエス様はどんな思いで三度目に「愛しているか」と「フィリア」をもってペトロに尋ねたのでしょうか。イエス様とペトロの会話は上述のように実のところ噛み合っていない。いつもイエス様と共にいたペトロでさえイエス様の真意がわからなかったのです。では、現代に生きる私たちはどうでしょうか。しかし、イエス様はペトロに合わせたように、きっと私たちにも理解できる仕方でご自分の愛と神様の愛を伝えてくださることでしょう。

イエスが三度も「わたしを愛しているか」と言われたので、悲しくなったとありますが(ヨハネ二十一・17)。果たして、本当に悲しくなったのはペトロなのか。それともイエス様なのでしょうか。また、イエス様はどんな思いで三度目に「愛しているか」と「フィリア」をもってペトロに尋ねたのでしょうか。イエス様とペトロの会話は上述のように実のところ噛み合っていない。いつもイエス様と共にいたペトロでさえイエス様の真意がわからなかったのです。では、現代に生きる私たちはどうでしょうか。しかし、イエス様はペトロに合わせたように、きっと私たちにも理解できる仕方でご自分の愛と神様の愛を伝えてくださることでしょう。



第50回アイルランド国際聖体大会日本公式巡礼団
大会テーマ「聖体：キリストとの一致、わたしたち同士的一致」
2012年6月9日(土)～19日(火)11日間／498,000円(成田・関空発着)
巡礼団長：幸田和生東京大司教区補佐司教／副団長：梅村昌弘横浜教区司教
申込先：阪急交通社「アイルランド国際聖体大会日本公式巡礼団」係
TEL 03-6745-7377 ※申込締切：5月9日(水)

文芸

奄美市 林 明子

アスファルトをふてふてがまいバスをまっしお風におうサンタマリアよ

愛光園 春山マリ子

神さまに助け求める私かなきつと気持ちも伝わるはずだ

鴨池 前田 儀子

天国への扉と云ふ曲われよりもはらから先にくぐりし扉
盲目の少女のためにベートーヴェン弾きしをわが孫は弾く

鹿児島純心 川上 和

寒の明け村人急ぐ石だたみフランス寺の御母微笑む

霧島市 市来 房枝

「歌は祈り」と常に言ひてアヴェマリアの曲繰り返し教え給ひき
(悼佐藤知子さん)

カンツォーネ数多教へ下さりソプラノ歌手の佐藤先生
今なればたやすく癒える病にて母逝きましてはや六十五年

大笠利 稲 牛憲

中庭の思い出描く梅しだれ
瀬音して石の黙解く春の川

俳句

鹿児島純心 川上 和

出水市 沖 弘子

純心学園 山頭 信子

春浅し「レドビユさまや」ロザさむ
春時雨田ノ神や苔生して

愛光園 春山マリ子

神さまに喜び祈るレンゲ草
カメ泳ぐ日光浴で春の宵

奄美市 林 常広

菜の花や友と記念の修了証
チューリップ孫の門出を祝い咲く

霧島市 政 ノブ子

「愛」という言葉を四つに分けて考えます。一つ目は男女の性的愛を表現するエロス、二つ目は子が親を慕う孝愛を表現するストルゲー、三つ目は友人間の友愛を表現するフィリア、四つ目は命がけの愛を表現するアガペー、以上に分けられます。

暖かいものに自然と「神さま、ありがとうございます」と手を合わせて感謝と賛美の言葉を添える。

「愛」という言葉は、わたしたちの主、イエス・キリストを信じます。この信仰宣言の言葉が、わたしたちの心を包みこんでくれるように思っています。

「父のひとり子」とお呼びするのは、イエス・キリストがその神である父と、唯一の、永遠不変の關係にあることを示しています。イエス・キリストは、御父のひとり子で、イエスご自身も神です。イエスとは「神は救う」という意味。おとめマリアから生まれた子は「ご自分の民を罪から救う方」だからです。キリスト信者になるには、イエスが神の御子であることを信じなければなりません。(カテキズム四五四)

みことばシリーズ あたまたかいもの

教区終身助祭 川 口

「父のひとり子」とお呼びするのは、イエス・キリストがその神である父と、唯一の、永遠不変の關係にあることを示しています。イエス・キリストは、御父のひとり子で、イエスご自身も神です。イエスとは「神は救う」という意味。おとめマリアから生まれた子は「ご自分の民を罪から救う方」だからです。キリスト信者になるには、イエスが神の御子であることを信じなければなりません。(カテキズム四五四)